



## 第59回 信用を点数化することのはず

## ▼人間に信用度点数をつけること

先日、中国企業が、「顧客の信用度」を点数化する事業を進めているという番組を見た。モバイル決済で有名な中国企業「アリペイ」のアプリ「芝麻(ゴマ)信用」である。アリペイは中国を中心に5億2,000万人の顧客が利用している。ゴマ信用を使えば、スマホ上に、自分の信用度点数や、友人や取引先の点数が表示される。その点数は、「社会的地位・身分、年齢・学歴・職業」「支払い履行能力」「クレジット履歴」「交友関係」「消費行動の特徴」という五つの指標を組み合わせて計算しているらしい。最低は350点、最高は950点で、700点以上だとかなり優良な消費者だとされる。点数の高い人はビザ取得が簡単にできたりホテルのデポジット(預り金)が不要など様々な特典がある。いっぽうで、行き過ぎた使い方もあるようだ。ゴマ信用の低い人は自分の交際相手には選ばない、ゴマ信用の低い友人とは縁を切る、などの行為が横行している。ゴマ信用の低い人間はデートもできないわけだ。自分の信用度が勝手に得点化され公開されるということが何をもたらすのか、恐ろしくなってきた。

## ▼信用とは何か

私たち人間は、大きな意味で「信用という空間」の中で生きている。神、貨幣、文化、国家、人間の生活に不可欠なものが多く、じつは「虚構を信じること」でできている。みんなが信じるからこそ虚構は「真実」となる。ゴマ信用は、人間を点数化するが、それは本当に真実だろうか。信用の点数化は、役に立つ人間を選別できる合理的な面と、借金などのマイナス評価の人間は二度と浮かび上がれない格差を助長する面もある。もし、国家がアリペイのもつ個人情報を利用すれば、効率的な管理社会ができる。ビッグデーターが支配する監視社会

を描いたジョージ・オーウェルの「1984」を彷彿とさせるものだ。

## ▼これからの世界と信用

人間は多くの人的ネットワークに宿づりされた存在である。そのネットワークのひもにあたるのが「信用」である。信用は、第一印象、言動と誠実さ、親しい人からの情報など、いろいろな要素から成立している。この複雑なプロセスを、丸ごとアリペイのゴマ信用に預けることが、いかに危険で愚かなことか。ゴマ信用が広がれば広がるほど、アリペイで買い物する客が増える、つまりアリペイは儲かるのである。アリペイの真の目的が、社会の幸福でなく儲けることであるならば、私たちはもっと用心深くならねばならない。自分の経験と五感を研ぎ澄ませ、相手がどんな人間なのかを真剣に判断する覚悟を、求められているのかもしれない。



鳥取大学医学部  
地域医療学講座  
教授

谷口 晋一  
(たにぐち しんいち)